

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立下灘小学校

1 自己評価書

教育目標 人とつながり、挑戦を楽しむ、心身ともに健やかな児童の育成						
本年度重点目標		○確かな学力を育てる教育の推進		○豊かな心を育てる教育の推進		
○安心・安全で充実した教育環境の整備		○特別支援教育の充実		○教職員の資質・能力の向上と組織の活性化		
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A A	A
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A B	B
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
	(成果と課題) ○校内研修で、実際に全国学力・学習状況調査の問題を解き傾向を把握することで、児童に身に付けさせるべき資質・能力が確認できた。 ○EILSやすららドリル、eスタ等の活用が進み、各学級で、読解力や計算力の向上に成果が見られた。					
	(改善策等) ○授業改善に向けて、自分たちで設定した学習課題の解決や、対話的な活動を深める工夫に積極的に取り組みたい。 ○読書活動の推進については、読み聞かせ等の活動を継続するとともに、3学期には読書への意欲が高まるような工夫を行っていく。					
	評価項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A A	A
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A A	A
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	A B	B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	A B	
	(成果と課題) ○学校アンケート等で、ほぼ全児童が「学校が楽しい」と答えるようになり、日頃の生徒指導や学級経営の成果が現れてきた。 ○登校に不安を覚える児童や欠席が多い児童が、学校での活動に前向きに取り組めるようになってきた。					
	(改善策等) ○自分から進んで挨拶をする習慣が十分に身につけていない。具体的な行動目標を立てながら指導を継続するとともに、地域とも連携して望ましい生活習慣の確立に努めたい。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	D	D
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされている。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <p>○職員が1名減の状態が解消されたことにより、前期に比べて多忙感が軽減された。 ○地域学校協働活動推進員や支援員との積極的で計画的な連携により、望ましい教育活動が展開された。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○業務改善コンサルタント事業における実践例を参考に、自校での働き方改革をさらに進め、働きやすい職場づくりに努めたい。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ・メール等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
・保護者アンケート				A		
・地域アンケート				A		
③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
			・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会の熟議で計画された活動が予定通り進められており、様々な成果が上がっている。 ○CSマイスターを講師に招聘して行った校内研修により、職員の地域学校協働活動に対する理解が深まった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○地域と連携して行った諸活動の成果の確認や反省を行い、来年度、さらに充実した活動ができるように努めたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満